

大学院21世紀国際共生研究科「平和・人権システム専攻」  
および附置研究所「国際共生研究所」開設記念シンポジウム

2009年10月21日(水)  
於 ホテルニューオータニ大阪

大阪女学院大学

# プログラム

司会進行 学長代行 中垣 芳隆

記念礼拝……………16:00～16:15 於 B1F プリムローズ

\*\*\*\*\*

シンポジウム テーマ「女性と人権」…16:15～18:15 於 B1F プリムローズ

司会 教授 香川 孝三

基調講演 「女性の人権 — 平等・発展・平和をめぐる—」

講師 林 陽子(弁護士・女子差別撤廃委員会(CEDAW)委員)

パネルディスカッション

司会 香川 孝三  
(本学大学院21世紀国際共生研究科教授・国際共生研究所員)

パネリスト 林 陽子(同上)

秋林 こずえ  
(立命館大学国際関係学部准教授・WILPF国際副会長)

阿久澤 麻理子  
(兵庫県立大学環境人間学部准教授・本学大学院21世紀国際共生研究科非常勤講師)

元 百合子  
(本学大学院21世紀国際共生研究科准教授・国際共生研究所員)

\*\*\*\*\*

懇親会……………18:30～20:00 於 B1F カトレア

司会 教授 中井 弘一

ご挨拶 大学院委員会委員長 香川 孝三

研究所所長 黒澤 満

食前の祈禱 教授 馬淵 仁

乾杯

会食懇談

学院長ご挨拶 学院長 西村 耕

## 記念礼拝式次第

司 会 教授 加藤 映子  
奏 楽 今井 瑛恵

前 奏

讃 美 歌 讃美歌21 560 一 同

聖 書 ピリピ人への手紙 学長代行 智原 哲郎  
第1章1～11節

祈 禱 同 上

式 辞 理事長・学長 関根 秀和

讃 美 歌 讃美歌21 27 一 同

祝 禱 准教授 梶原 直美

後 奏

# 讚美歌 21 560

In Christ there is no East or West  
 詞：John Oxenham, 1852-1941

ST. PETER  
 曲：Alexander R. Reinagle, 1799-1877

1 主 イエス にお いて は せ か い の た み、  
 2 主 イエス の す く い は ち か ら づ よ く、  
 3 ひ と を さ べ つ せ ず こ こ ろ ひ ら き、  
 4 主 イエス にお いて は せ か い の た み、

1 主イエスにおいては 世界の民、  
 東と西との へだてはない。

2 主イエスの救いは 力強く  
 南と北とを 結び合す。

3 人を差別せず 心ひらき、  
 ひとしくみ神の みに立とう。

4 主イエスにおいては 世界の民、  
 心をかよわせ 一つとなる。

ひ が し と に し と の へ だ て は な い。  
 > み な み と き た と を む す び あ わ す。  
 ひ と し く み か み の み ま え に た と う。  
 > こ こ ろ を か よ わ せ ひ と つ と な る。

(♩=88)

ア-メン

# 讚美歌 21 27

ORTONVILLE  
 曲：Thomas Hastings, 1784-1872

ち ち・子・せい れい の ひ と り の 主 よ -、さ か え と ち  
 から は た - だ 主 に あ れ -、と - こ し え ま で -。

(♩=108)

父・子・聖霊のひとりの主よ、  
 栄えと力はただ主にあれ、  
 とこしえまで。

ア-メン。

ア-メン。

キリスト・イエスの僕たち、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。

わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

わたしはあなたがたを思うたびごとに、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈るとき、いつも喜びをもって祈り、あなたがたが最初の日から今日に至るまで、福音にあずかっていることを感謝している。そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。わたしが、あなたがた一同のために、そう考えるのは当然である。それは、わたしが獄に捕われている時にも、福音を弁明し立証する時にも、あなたがたをみな、共に恵みにあずかる者として、わたしの心に深く留めているからである。わたしがキリスト・イエスの熱愛をもって、どんなに深くあなたがた一同を思っていることか、それを証明して下さるかたは神である。わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い知識において、するどい感覚において、いよいよ増し加わり、それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るように。

## シンポジウム テーマ「女性と人権」

### 趣 旨

1960年代アメリカで女性解放運動が台頭し、その理論的背景として女性学が誕生して以来、女性の地位の向上を目指す動きが世界中で巻き起こった。国連では1976年から1985年が「国連女性の10年」とされ、その最大の成果として1979年の国連総会で「女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」が採択され、日本も1985年に批准した。この条約を契機として各国で女性差別を見直す動きが活発になり、その動きが男性主導社会の担い手であった男性の意識改革を求める動きを生み出し、最近では男女共同参画を目指す方向が示されている。

「国連女性の10年」のテーマは、「平等・発展・平和」であった。今回のシンポジウムでは、女性差別撤廃条約成立後の30年を振り返り、平等(人権)・発展(開発)・平和のそれぞれの分野において、この条約が日本社会にどのような影響をもたらしたのかを検証しつつ、日本が直面する課題は何であり、どのような変革が必要なのか。世界の女性の状況や国連を中心とした人権の取り組みを視野に入れながら、考察してみたい。

### 基調講演 「女性の人権—平等・発展・平和をめぐる—」

#### 講 師

林 陽子(はやし ようこ)

〈現職〉弁護士、女子差別撤廃委員会(CEDAW)委員、内閣府男女共同参画局「女性に対する暴力に関する専門調査会」委員

〈主な著書・論文〉『実務ジェンダー法』(共編著)民事法研究会、2007年、「女性の権利は人権—グローバル化する世界と女性の人権をめぐる—」(論文)自由人権協会編『市民的自由の広がり』所収、新評論社、2007年、「日本における差別と人権」(共著)解放出版社、2002年、シャーマン・バビオー著『女性への暴力…アメリカの文化人類学者が見た日本の家庭内暴力と人身売買』(共訳)明石書店、1996年、『働く女たちの裁判』(共著)学陽書房、1996年、『注解女性差別撤廃条約』(共著)国際女性の地位協会編、尚学社、1992年

〈略歴〉1979年早稲田大学法学部卒業。1983年の弁護士登録後、外国人女性の緊急支援施設「女性の家HELP」や、性暴力被害者のためのホットライン「東京・強姦救援センター」などで法的支援活動に関わる。アジア太平洋地域の国際NGOであるAsia Pacific Forum on Women, Law and Development (APWLD,本部マレーシア)の運営委員(1990～1996)。北京女性会議日本政府代表団顧問(1995年)。国連人権の促進と保護に関する小委員会・横田洋三委員の委員代理(2004年～2006年)。早稲田大学法務研究科客員教授(2004年4月～2009年3月)。内閣府男女共同参画局「女性に対する暴力に関する専門調査会」委員(2000年より現在に至る)。女子差別撤廃委員会委員(2008年1月より現在に至る)。

## ■ パネルディスカッション

---

### 司 会

香川 孝三(かがわ こうぞう)

〈現職〉本学大学院21世紀国際共生研究科教授 〈最終学歴〉東京大学大学院法学政治学研究科

〈研究テーマ〉労働に関する企業の社会的責任、アジアの児童労働、アジアの人身売買、アジアの労働法

〈主な著書〉*Japanese Labour Laws*, Deep and Deep Publishers, India, 2007、『法整備支援論—制度構築の国際協力入門』(共編著)ミネルヴァ書房、2007年、『2007 *Employment Terms and Conditions in Asia/Pacifics*, Watson and Wyatt, Hong Kong, 2009、『ベトナムの労働・法と文化』信山社、2006年、『グローバルゼーションと労働法の行方』(共編著)勁草書房、2003年、『政尾藤吉伝』信山社、2002年、『アジアの労働と法』信山社、2000年

### パネリスト

林 陽子(はやし ようこ)

同 左

秋林 こずえ(あきばやし こずえ)

〈現職〉立命館大学国際関係学部准教授、WILPF(婦人国際平和自由連盟)国際副会長 〈最終学歴〉コロンビア大学教育学大学院(米国)

〈研究テーマ〉軍事化・脱軍事化をジェンダー、セクシュアリティの視点から研究

〈主な論文〉“Okinawa: Women's Struggle for Demilitarization”(共著)*The Bases of Empire: Global Struggle Against U.S. Military Posts*. Pluto Press, 2009、「家父長制と軍事主義、そして女たちの抵抗」『インパクション』163号、インパクション出版会、2008年、「ジェンダーと人間の安全保障—アジアから」『アジアから見るジェンダー』風行社、2008年

阿久澤 麻理子(あくざわ まりこ)

〈現職〉兵庫県立大学 環境人間学部准教授 〈最終学歴〉大阪大学大学院人間科学研究科

〈研究テーマ〉学校・市民社会組織・国内人権機関による人権教育、制度化された人権教育の批判的検証

〈主な著書・論文〉「世界の大学院における『人権修士』プログラムの意義と課題」『部落解放研究』No.183(社)部落解放・人権研究所、2008年、“Issues and Problems in Disseminating ‘Universal Human Rights’ in Local Communities: Through the efforts of the national human rights institutions in the Philippines and Malaysia.” *Reflections on the Human Condition: Change, Conflict and Modernity* (The work of the 2004/2005 fellows), The Nippon Foundation, 2007

元 百合子(もと ゆりこ)

〈現職〉本学大学院21世紀国際共生研究科准教授 〈最終学歴〉米国コロンビア大学国際公共政策大学院

〈研究テーマ〉マイノリティの権利、民族教育権、マイノリティ女性に対する複合差別

〈主な著書・論文〉ナタン・レルナー『宗教と人権:国際法の視点から』(訳書)東信堂、2008年、“U.S. Use of Toxic Materials in Warfare and International Law”『大阪女学院大学紀要』2007年、「人身売買対策における人権の主流化:欧州評議会の新条約を中心とする一考察」『大阪女学院大学紀要』2006年、「マイノリティの民族教育権をめぐる国際人権基準—外国籍住民を中心に」『アジア太平洋レビュー』大阪経済法科大学アジア太平洋センター、2004年

(敬称略)

